

## 事業概要

- 1 事業場所** 米子市皆生新田
- 2 事業内容** 排水機場 1式(排水能力5m<sup>3</sup>/s×2基)
- 3 事業期間** 平成28年度～令和8年度(予定)
- 4 事業費** 約20億円
- 5 事業効果**

県では、水貫川氾濫被害の軽減のため、既存の排水量2m<sup>3</sup>/sの国の排水機場に加え、計画規模1/30洪水による床上浸水の解消を目標とした排水量10m<sup>3</sup>/sの排水機場の整備を定めた河川整備計画を平成28年に策定しました。

当面は、過去最大の浸水被害があった昭和62年10月洪水の床上浸水の解消を目標とした排水量5m<sup>3</sup>/sの排水ポンプの暫定整備をすることとしています。

\* 計画規模1/30洪水とは、おおよそ30年に1回程度の確率で発生する出水をさします。

## 位置図



## 水貫川の経緯

水貫川は、日野川の最大取水水路の分岐水路として、周辺地域の排水及び灌漑水路として寄与していましたが、皆生温泉地区の発展に伴い都市計画による市街化が計画されたことを踏まえ、水貫川の流下能力不足を解消するため、昭和49年から小規模河川改修を計画して、計画高水流量70m<sup>3</sup>/sとする河川改修を実施しました。

本事業においては、昭和59年には合流部に逆流防止樋門(水貫川樋門)を設置しましたが、樋門閉鎖時の排水処理施設が未整備であったため、昭和62年10月洪水において樋門閉鎖に伴う浸水被害が発生しました。このことを受けて、国が平成8年度に救急内水対策事業により排水量2m<sup>3</sup>/sの排水ポンプを設置しました。

しかし、平成23年、25年、30年の洪水でポンプ排水能力を上回る出水が発生、なかでも平成30年は、国及び県の排水ポンプ車も出動して出水対応、家屋への浸水被害はなかったものの道路冠水被害があり、近年、浸水被害の危険性が高まっているところであります。

皆生救急内水対策事業  
(皆生救急内水排水機場の整備)  
事業期間：H8  
排水量：2m<sup>3</sup>/s

### 水貫川樋門及び皆生救急内水排水機場

米子市皆生地区は、水貫川が日野川に合流している低平地であるため、過去、内水被害が発生しています。

そこで、運搬可能で比較的小規模なポンプを使用することにより、地区の内水状況に応じた排水を図るものとして「救急内水対策事業」を実施し平成6年度より事業着手、平成8年度に完成し、出水期に備えています。



### 樋門及び排水機の諸元

項目	諸元	樋門	排水機場
名称	水貫川樋門	皆生排水機場	
所在	米子市皆生新田地先	米子市皆生新田地先	
規模	鋼筋→2.80×5.40×4門	ポンプ1m <sup>3</sup> /s×2台	
吐口の敷高	0m(T.P.=1.0m)	0m(T.P.=1.0m)	
量水標の参考高	場外=T.P.=1.0m 場内=T.P.=1.0m	場外=T.P.=1.0m 場内=T.P.=1.0m	
背後地の状況	宅地	宅地	

水貫川河川改修事業  
(水貫川排水機場の整備)  
事業期間：H28～R8  
排水量：10m<sup>3</sup>/s(暫定5m<sup>3</sup>/s)

### 樋門及び排水機の諸元

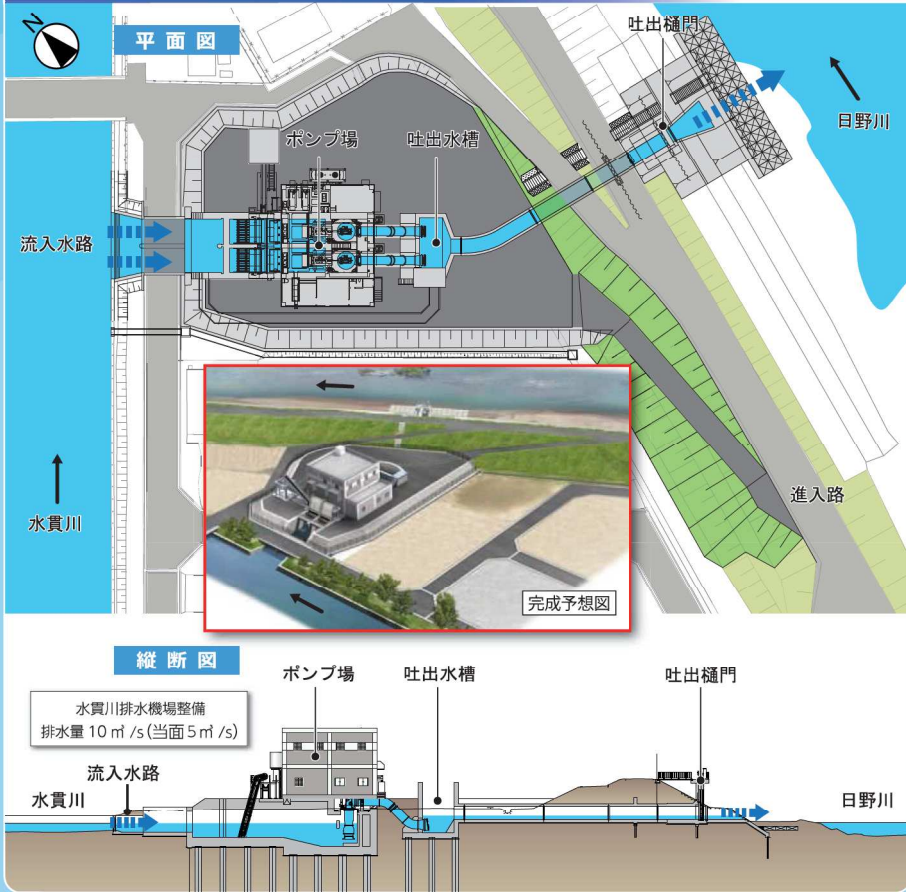
項目	諸元	樋門	排水機場
名称	水貫川排水機場吐出樋門	水貫川排水機場	
所在	米子市皆生新田地先	米子市皆生新田地先	
規模	鋼筋→2.30×2.30×1門	ポンプ5m <sup>3</sup> /s×2(暫定1台)	
吐口の敷高	TP+1.00m	TP+1.00m	
背後地の状況	住宅地	住宅地	

## 水貫川河川改修事業における浸水被害軽減対策

# 水貫川排水機場



## 排水機場概要図

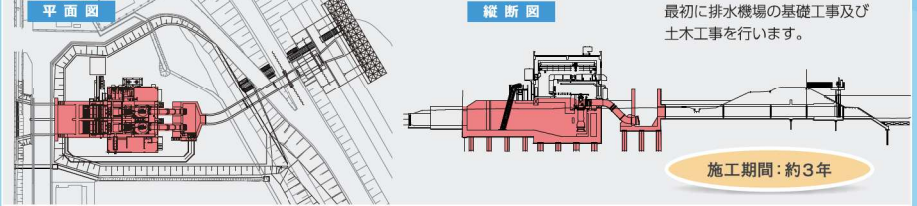


## 排水機場の仕組み

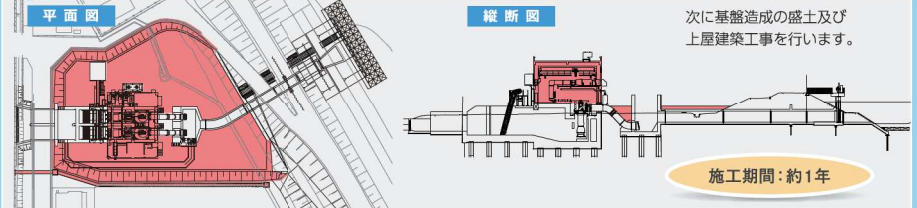


## 施工手順図

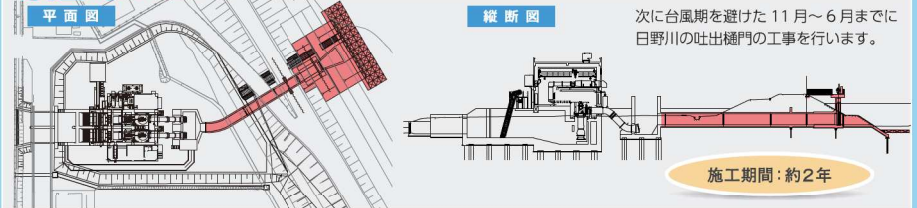
### STEP 1 排水機場土木工事



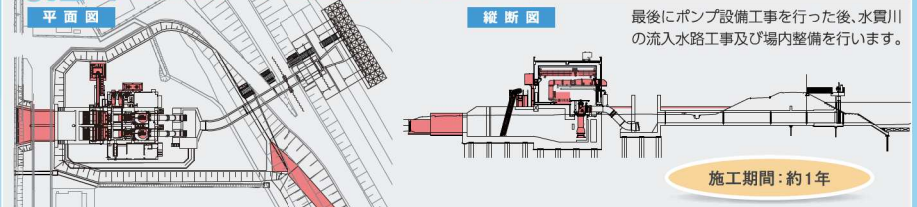
### STEP 2 盛土工事・建築工事



### STEP 3 排出樋門工事



### STEP 4 流入水路工事・ポンプ場設備工事・外構工事



※各ステップの施工期間が重複することもあります。

## 過去の被害写真や水防活動状況

昭和62年10月豪雨



平成27年7月豪雨



平成30年9月豪雨

